

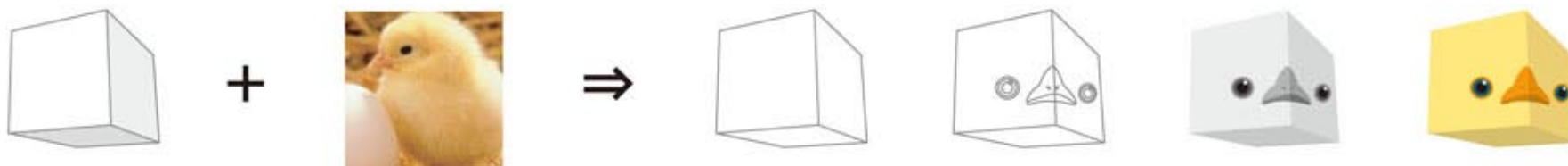
「ハコシキ.ワークショップ」の、ご提案.

ハコシキ.を通じて、^{ハコ}箱コミュニケーションしてみませんか？



「ハコシキ.ワークショップ」とは？

箱式は、なんの変哲もない、いつも見慣れた単純な形状である立方体＝箱（CUBE・四角・展開図）を素材に用い、角面にデザインを施し、動物・ロボット・車・人などのモチーフを、すべて箱型で具現化（キャラ化）する、**クリエイティブツール**です。



このクリエイティブツール「箱式」を使って、

「ハコおじさん」ことオオクラテツヒロが子供たちと直接対話しながら「絵の描き方、楽しみ方」を教え、和気あいあいと楽しく、自然に、「空間把握能力」や「想像力」を養い、最後に行なう発表会（プレゼン）で自信を持って帰ってってもらうワークショップです。ワークショップでは、CGで制作したハコシキムービーの上映や絵葉書(箱式見本)のプレゼントなどもあり、多面的に「箱式」を楽しむことができます。ワークショップが終わると、参加した子供たちが作った箱（ティッシュ箱）をお土産として持ち帰ることができるので、ワークショップに参加した「達成感」を味わうことができます。

■イベント内容（テーマ）に合わせて教材（コンテンツ）が変わる進化型WS。

ハコシキ.ワークショップは過去15年及ぶ実績を元に、学校・幼稚園（保育園）美術館・動物園・図書館・商業施設・各種イベントなど、イベント内容（テーマ）に合わせて教材（コンテンツ）を提案しながら作りあげていく進化型ワークショップです。

【例】箱式ティッシュBOX(無地)（ぬり絵）／デカ箱作り／箱式トリックアート／箱マラカス(楽器)／箱式運動会(箱を使った競技) etc...



「ハコシキ.ワークショップ」を知る3つのキーワード

1 学ぶ

立方体の展開図に、子供たちの感性で自由に絵を描いていくのが基本ですが、その前に、絵の描き方、線の引き方、色の使い方を、「ハコおじさん」ことオオクラテツヒロが15年に渡るワークショップ活動の経験を元に一人一人の子供たちに直接語りかけながら教えるため、子供たちは「絵画の基本」を楽しく学ぶことができます。親子ワークショップの場合はコミュニケーションも自然に学べます。

2 知る

「ハコシキ.ワークショップ」で描くのは、かわいい鳥や動物たち。いろんな種類の鳥や動物が存在すること、そして、中には「絶滅危惧種」といわれる動物達が世界中で生育していることを、それらの動物を描いて楽しみながら知り、動物や環境を大事にする心を育みます。もちろん、鳥や動物だけではなく、学校などの建物や、森や池などの自然環境、車や自動車などの乗り物を描きながら、それぞれの特徴を知ることでもあります。

3 鍛える

人間には、平面を見て脳内で立体化するという、二次元を三次元に変換して把握する「空間把握能力」が備わっています。しかし、この空間把握能力も、子供の頃から慣れ親しんでいなければ十分に鍛えられません。国家公務員試験にも「空間把握」という科目があるように、幼い頃からいかに「空間把握能力」を鍛える訓練をしてきたかが、大人に成長してからも日常生活や仕事で問われることとなります。また、「空間把握能力」はサッカーやバスケットボール等の集団で行うスポーツにも役立つといわれています。



「ハコシキ.ワークショップ」で楽しみながら「空間把握能力」を鍛える。

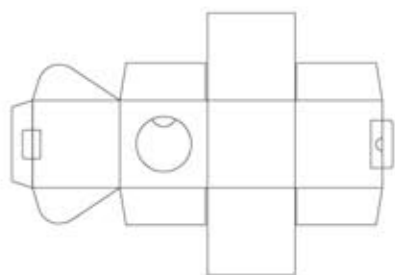
「ハコシキ.ワークショップ」は、
この二次元を三次元に変換する「空間把握能力」を楽しみながら鍛えることができます。

まず、①子供たちは、動物の写真（二次元）を見て、その動物がどういう姿態であるかを想像し、脳内で立体化します（立体化された動物を「対象形態」といいます。）。次に、②まだ何も描かれていない立方体の展開図（二次元）を見て、展開図のどの面に何を描けば、立方体＝箱になったときにどういうデザインになるかを想像します。そして、③子供たちは、①で脳内において立体化した「対象形態」と②で想像した立方体のデザインを同時に脳内でリンクさせながら、クレヨンやペンを手に持ち、実際に平面の展開図に絵を描いていきます。展開図が描き終わったらそれを立体化（箱型）します。実際に立体化された箱と自分の脳内で想像したイメージのギャップを把握することも「空間把握能力」を養う一歩となります。

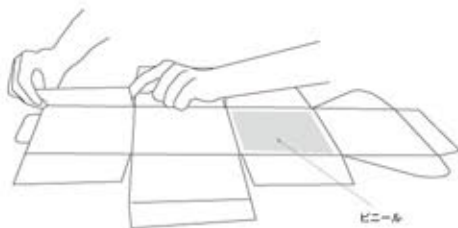
この①から③までの一連の作業により、「空間把握能力」、「想像力」、「（イメージをもとに手を動かす）運動能力」、「画描力」が楽しく、自然に養われます。年齢による能力差も考慮して、小学校低学年までの子供、「ハコシキ.ワークショップ」を初めて体験する子供、動物や乗り物を想像して描くことが難しい子供には、①の過程を省略してサイコロ等の簡単な「立方体」を見ながら展開図に絵を描いたり、まず最初に箱を組み立ててから箱の側面に直接絵を描きこんでいく、などの比較的簡単な作業（下図参照）から始めて、空間把握や絵画の基礎を学んでもらいます。

さらに、応用編として、箱の「角面」を活用して、鳥のくちばしを描いたり、動物の鼻や口を描くことで、より高度な「立体」「空間」の把握から実現までの過程を学ぶこともできます。

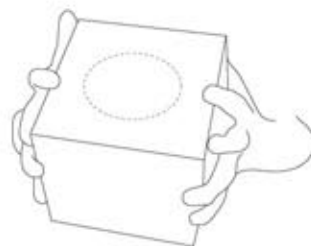
■ハコシキ.ティッシュBOXの作り



■展開図（てんかいず）を組立てる



■ビニールが貼ってある面を上にして折曲げる



■四角い箱になります。



■自由な発想で箱に絵を描きます。



■出来上がり！！

イベントに合わせた、広告・販促ツールとしてのハコシキ。



ブックマーク



ボックスティッシュ



ポストカード



絵本



小物入れ



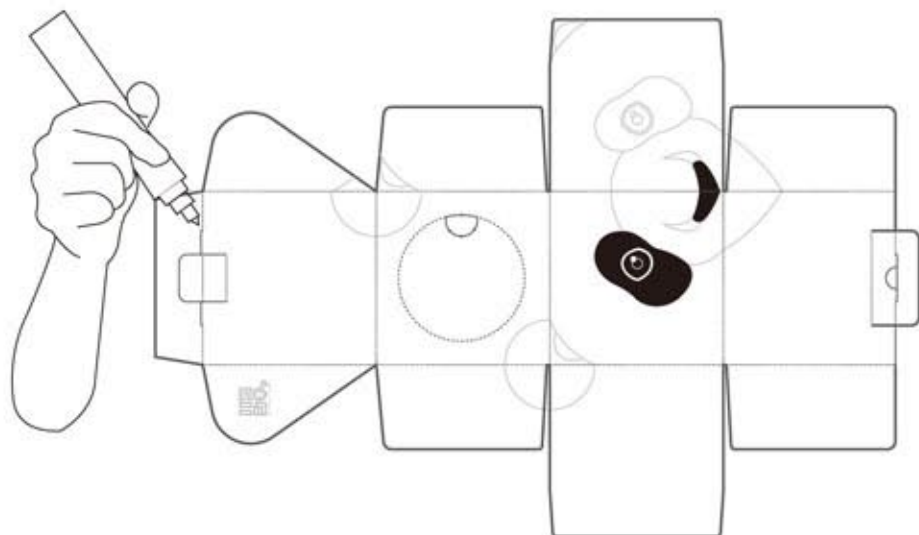
Tシャツ



マウスパッド



ブロックメモ



ぬりえ



お菓子



トリックアート

汎用性のあるデザインなので
商品・イベントの用途に合わせた告知情報を
デザイン出来、組立てる(キャラ化)事により
捨てられない広告(箱)を作る。

オオクラテツヒロ. Tetsuhiro Ookura プロフィール

広告代理店勤務を経て独立。グラフィックデザイン（アニメ・映画などの広告やパッケージデザイン）を軸にイベント、執筆業、仕組みづくりを展開。00年からアートユニット「ハコシキ.」の総合プロデュース+キャラクターデザインを手掛け、各都市での美術館動物園、幼稚園、図書館などの様々なイベントでワークショップを中心に子供たちとのコラボレーションを続ける。このワークショップでNPO法人「CANVAS（子供向け参加型創造・表現活動の全国普及・国際交流を推進するNPO）」のフェローとしての活動も始める。現在、CGアニメ『グリンの冒険』の総監督+キャラクターデザイン等を手掛けるなど、デザインの枠にとられない活動を展開中。

主なワークショップ Workshop of Hakoshiki

■丸の内KITTEグランシェ ■東京ミッドタウン ■慶應義塾大学「ワークショップコレクション（NPO法人「CANVAS）」 ■丸の内キッズフェスタ（東京国際フォーラム） ■フジテレビ「お台場冒険王／お台場サマースクール」（NPO法人「CANVAS）」 ■パナソニックセンター東京 ■ソフトバンク本社ファミリーティws ■ながおかエンジン（新潟） ■東京・秋葉原クロスフィールド「ワークショップコレクション」（NPO法人「CANVAS）」 ■パナソニックセンター東京 ■TOTO東京センターショールーム ■箱根彫刻の森美術館 ■十和田市現代美術館 ■青森県立美術館 ■岩手県立美術館 ■北九州市立美術館 ■直方谷尾美術館 ■織田廣喜美術館 ■田川市美術館 ■東京都・恩賜上野動物園 ■北九州・到津の森公園 ■横浜プリリア ショートショート シアター ■とびうめ国文祭 ■博多『ロボスクエア』 ■東京・大阪・名古屋・青森の各幼稚園(保育園)、小学校、 ■港区立高輪図書館 ■北九州市八幡西・赤坂児童クラブ ほか多数



【ハコシキ.Web】 <http://www.hakoshiki.jp/>

【トリックアート動画】 <https://www.youtube.com/watch?v=DJhA0l0nctc>

【CGアニメ『グリンの冒険』】 <https://www.youtube.com/watch?v=jSLZnykJ8q0>